●川にまつわる話　●ダム統管のしごと　●ポトムのQ&A

川にまつわる話 16

城沼とおつじの方の入水伝説

板橋春夫

館林市の城沼には女性が水に飛び込んで亡くなった入水伝説が伝わっています。城沼の南岸に位置する、つつじが岡は「花山」と呼ばれ、江戸時代からツツジの名勝地として知られていました。

江戸時代の初め、館林城主の側室におつじの方という女性がいました。ある春の日、※腰元を従えて城沼で舟遊びをしていました。沼の中ほどにやって来たときに急に舟が動かなくなってしまいました。腰元たちは驚き、これは沼の主である龍神のしわざと推測しました。

この沼には龍神が住んでおり、舟に乗っていた老女が「この舟の中の誰かが沼の主に魅入られたので舟が動かなくなった」と言いました。そして、舟を動かすには龍神に魅入られた人が水中に身を投ずればよいということになりました。それが誰であるかを占うため、自分の持ち物を沼の中に投げ入れ、水中へ沈めばその人がいけにえになるべきであるとしました。

その提案によって、腰元たちは順番に自分の持ち物を城沼へ投げ入れることにしたのです。しかし、誰もが水中へ持ち物を投げてみたものの、すぐに浮かび上がってしまいました。一番最後におつじの方が持ち物を投げると、何と沼の中へ吸い込まれるように奥深く沈んでいきました。

そして、おつじの方が龍神に魅入られていることになり、おつじの方は城沼の奥底へ引き込まれるように入水することになったのです。そのとき侍女のお松も一緒に入水しました。すると、女中たちが乗っていた舟は、何事もなかったかのように再び進んでいきました。おつじの方の入水を知り、殿様は嘆き悲しみ、ツツジを植えて供養したと言います。それがつつじが岡の由来となっています。

龍神に魅入られるというのは、この伝説の重要な部分であり、各地に伝わる入水伝説も同様の内容になっています。ここで注意したいのは、舟に乗っているとき、急に止まってしまうという昔話が各地に伝わっていることです。舟を止めてしまうのは、※山繭と呼ばれる天蚕の糸で作った着物を着た人がいた場合であり、山繭の織物を着ている人は龍神と考えられる鮫に魅入られて水中奥深くへ引き込まれてしまうと伝えられています。それも山繭の着物を着た人だけが鮫に魅入られるのです。

館林のおつじの方の伝説は、つつじが岡のツツジ由来伝説となっている点が特徴で、入水したおつじの方とその侍女お松の墓と伝えられる石塔が、城沼のほとりに建つ善長寺境内にあります。その墓には慶長十四(一六〇九)年の年号が刻まれ、初代館林藩主の榊原氏にかかわる歴史上の事実として伝えられています。

※腰元　武家などにつかえた女性のことで、女中の別称である。

※山繭　天蚕ともいい、自然にすむ緑色をした天然の蚕で、クヌギなどを食べて育つ。緑色の独特の糸を吐き、その糸は高価で取り引きされる。

□参考文献／参考文献／川島惟知『館林・邑楽の民話と伝説』聚海書林、1985年、『館林とツツジ（館林市史特別編第一巻）』館林市、2004年

板橋春夫(いたばし・はるお)
1954年生まれ。群馬歴史民俗研究会代表。著書に『平成くらし歳時記』(岩田書院、2004年)、『暮らしの中の民俗学』第一巻(共著・吉川弘文館、2003年)などがある。

ダム統管のしごと

利根川ダム統合管理事務所

利根川の流量をいつも一定にたもつ。必要な情報を電気通信設備で集める。

前号(第16号)で「大雨をともなう台風が近づいてきたときにダムをコントロールして利根川の洪水をふせぐ」という利根川ダム統合管理事務所の「管理課」と「機械課」のしごとをしょうかいしたね。

それじゃ、ふだんの利根川の水はどうやって管理しているのか。そのしごとをしているのが「広域水管理課」なんだ。

利根川の水は、飲み水や農業用水、工業用水など、さまざまなことに使われている。もしも川の水が少なくなりすぎると、家庭や学校、田んぼや畑、工場などに必要な水を供給できなくなってしまう。それから、川の水が少ないと、さかなどの生き物たちが川にすみづらくなるし、自然環境にもわるい影響をあたえることになるんだ。

だから、利根川にはいつも一定の量の水が流れるようにしておかなければならない。そして、雨が長いあいだふらないなど、川の水が一定の量よりも少なくなるおそれがある場合には、必要な量の水をダムから川に放流するようにしているんだ。このように、利根川の「流量調整」というしごとを広域水管理課はしているわけだね。

では「いま利根川にどのくらいの量の水が流れているのか」ということを、どうして知ることができるんだろう？

それは、利根川のいくつもの個所に、川の水位などを24時間監視する装置がおかれ、そのデータが事務所へ送られてくるからなんだ。このような「電気通信設備」は、ほかにもダムを監視したり、ダムからの放流をまわりの人たちに知らせたりなど、目的に合わせてさまざまな種類があり、利根川流域のいろんな場所で活躍しているんだ。

これらの電気通信設備が正常にはたらくように管理する。それは利根川ダム統合管理事務所の「電気通信課」のしごとなんだよ。

事務所の中の大型情報表示板。ダムや河川などの現在の情報がひとめでわかる

ポトムのQ&A

どうしても知りたいこと、あるんだけど…教えてポトムくん！

A Q 紅葉のきれいなダムがあったら教えて！

群馬県のダムはほとんどが山の中にあるので、だいたいどのダムでもきれいな紅葉がみられるよ。たとえば、奥利根の3つのダム、矢木沢ダム(奥利根湖)・奈良俣ダム(ならまた湖)・藤原ダム(藤原湖)は、ちょうどこの「川の子ども新聞」がみんなのもとへとどくころ、10月中旬から下旬にかけてが紅葉のシーズン(矢木沢→奈良俣→藤原の順に紅葉になってくる)。湖と紅葉のおりなすきれいな景色が楽しめるよ。また、奥利根には「照葉峡」「諏訪峡」など、紅葉の名所もあるんだ。

ほかに、薗原ダムの上流の「吹割の滝」、草木ダムの下流の「高津戸峡」、それから前号(第16号)でしょうかいした四万川ダムの下流の「四万温泉」なども紅葉の名所として知られている。この3カ所はだいたい11月上旬が紅葉のみごろだ。

おうちの人といっしょに出かけてみてね。